

# 会長からの メッセージ

第24回



唐松岳より望む劔岳



## 研ぎ澄ませ、 ものづくりの心と技

土木学会第100代会長

小野 武彦



した。今、私は学会活動の中に人を育てる  
土壌ができつつあると実感しています。

また、この3月に4日間にわたって開催  
されたシンポジウム「東日本大震災から2  
年」では、被災地の本格復興と日本再生へ  
の処方箋というテーマのもと土木技術者  
のみならず異分野の方々も迎えた報告や活  
発な意見交換がなされました。これまでの  
活動の成果が、「被災地の復興」と「災害多  
発国家日本の国づくり」の施策に具現化さ  
れるとともに、土木技術者が新たな目標を  
得て活動の領域を広げ、数多くの協働の場  
が生まれ、そのことが土木技術者を育てて  
いくと確信しています。

次の大きな協働のテーブルは創立100  
周年記念事業です。本学会の大きなテーマ  
である「社会貢献」「国際貢献」「市民交流」  
を3本の柱として、これからの100年をさ  
らに発展させていくために今いる私たちが  
総力を挙げて取り組まなければなりません。  
この活動を通じて、人・技術・組織の総合  
化への道が開けてくることを願っています。

今、われわれ土木技術者はその存在意義  
を社会に示す好機にあります。その機会を  
活かすためには、社会資本の整備を通じて、  
持続・発展する豊かな社会を実現するとい  
う大きな責任と役割を全うしなければなり  
ません。そこには日本人が本来的に有して  
いる自助・共助・公助の精神に基づく確か  
な価値観が存在しています。東日本震災  
以降、「想定外」が技術者・科学者には禁句  
となるような風潮にややもするとわれわれ  
が時間かけて築き上げてきた合理的な価値  
観を揺さぶられる場面があります。しかし、  
われわれはさまざまな場面で社会と的確に  
対話するとともに、それぞれの立場で技術  
を研鑽し、常に合理的な社会資本整備の在  
り方を追求するというところで社会の信頼を  
得ていくべきです。

皆さん、今の自分を磨き、将来の土木技  
術者を育てるために行動を起こそうではあ  
りませんか。最後に、会長としてのメッセー  
ジを締めくくりにあたって、この言葉を贈  
ります。「研ぎ澄ませ、ものづくりの心と技」

私からの「会長メッセージ」は今回が最  
後になります。読者の皆様は気付いておら  
れると思いますが、「ものづくりは人づく  
り」をサポートとして毎回のメッセー  
ジを綴ってきました。われわれにとって、  
ものとは安全・安心で営み続ける社会資本  
の総称であり、人はその社会資本を過去か  
ら未来にわたり営々として世に提供し続け  
る土木技術者たちのことであることは申す  
までもありません。私は本学会の大きな役  
割の一つとして、この土木技術者たちが育  
つ環境を提供することにあると強く認識し  
てまいりました。本学会の特徴は官・学・  
産で構成され、会員の多様性とともな社会

資本整備という共通の目的で固く結びつい  
ており、そのことが人を育てる上での強み  
であるとさまざまな機会をとらえて申し  
上げてきました。私自身も立場や生業の異  
なる多くの会員の皆さんとの会話の中で、  
「はつ」と気付かされることや、「えつ」と  
驚かされる貴重な経験を幾度もしました。  
私は会長就任にあたって、本部・支部の連  
携と支部活動の活性化を掲げました。それ  
は全国で活動されている皆さんがお互いに  
協働し、物事を確実に成し遂げていくプロ  
セスを踏むことで人が育つと信じたからで  
す。そして、その協働の場（テーブル）を数  
多く提供するために諸活動を推進してきま